




1_民宿とおのが開発した、どぶろく・どぶきゅー。このどぶろくを楽しみに民宿を訪れる人も多い 2_今年は雑草の量が多く、連日田んぼの草取りを行っている 3_蔵見学を訪れた学生などに、米やどぶろくについて説明することもある

あるので、さまざまな人に発酵について伝えていく取り組みが出来たらと考えています。また、教育に興味があるの、さまざまに人に見学に来てもらって、その後にどぶろくや米に興味を持ってもらいたい。そんな展開ができれば面白いなと考えています。

イベント 9月に企画しているイベントです
お気軽にお問い合わせください

**第11回おもしろTONO学
遠野まつりを100倍楽しむ！
郷土芸能総予習**

- 日時：9月9日(日)9時～15時半
- 集合：旧三田屋呉服店(一日市通り)
- 内容：9月15・16日に開催される遠野まつりをより深く楽しむために、遠野の郷土芸能やまつりの歴史について学びます。
- 参加費：2,500円(市内在住の方：1,500円)
- 定員：20人
- 問い合わせ
to knowプロジェクト 及川
メール：oikawa.ncl@gmail.com



「11企業から、どぶろくづくりへ」
発酵(どぶろく)プロジェクト 八重樫海人さん

遠野に来る前はどんなことをしていましたか？
大学では教育学・心理学を専攻し、心理学を深めたいという思いから大学院にも進みました。その後、新卒でWEBマーケティング会社に入社し、アンケートの設計などをしていました。このプロジェクトの募集があった時は、地元・盛岡に戻って遠隔で仕事を

していました。ちょうど次の仕事をどうしようかと考えていた時に、この取り組みを新聞で見かけて興味を持ちました。

遠野に来てからどんな活動をしてきましたか？
研修先の「民宿とおの」で、どぶろくづくりを学び実践しながら、料理や配膳などの手伝いもしています。どぶろく



の原料になる米も、自分たちで育てています。午前中にとどぶろくの仕込み、午後は商品発送の作業、夜は民宿の手伝いというのがおまかな一日の流れです。飲んでもらって「美味しい！」とか「こんなどぶろくは初めて！」と言っていたのが嬉しいですね。

今後の目標や取り組みたいことを教えてください。
これからは、品質の安定化に向けて、前職の経験も生かしながら学んだことを体系立ててまとめていけたらと思っています。また、教育に興味があるの、さまざまに人に見学に来てもらって、その後にどぶろくや米に興味を持ってもらいたい。そんな展開ができれば面白いなと考えています。

遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介
遠野で起業に挑戦中！
Vol.6

平成28年から市と(株)ネクストコモンズが手がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り住んだ10数人の地域資源を生かした起業・事業化や自立に向けた活動の様子、イベント情報などをお伝えします。

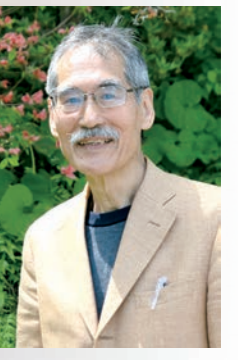
遠野文化研究センターだより とおのじん -其の4-

遠野人

遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報を、6月号からお届けしています。
今月は、「日本最古級の遺跡」についてです。

★筆者 **木瀬 公二**

遠野文化研究センター研究員、朝日新聞・社友記者。1948年東京生まれ。73年朝日新聞入社。元盛岡総局長。08年に達曾部に移住。著書に遠野物語関連の『119のはなし』など。



最初に日本に入ってきた人類が住んだのは遠野？



昭和60～61年に行われた発掘調査の様子

人類は約700万年前にアフリカで誕生した。彼らは何百万年もかかってそこから出て世界中に広がっていった。そうして日本列島に到達した。その彼らはま

ず、日本のどこに住んだのでしょうか。なんと、遠野なのです。「え、うそ～」という声が聞こえてきそうですが、今は、「その可能性が、かなりあります」という段階です。それでもすごいことです。何しろ日本中で住みやすそうところはどこか、と探して遠野を選んできたわけですから。その根拠が、宮守町達曾部にある金取遺跡です。

金取遺跡は昭和59年(1984)に見つかりました。出土品の地層から、今から約9万年前に遡る旧石器時代の遺跡と確認されましたが、当時それよりもっと古いと言われる遺跡が日本各地で見つかっていました。だから「本州最北の前期旧石器遺跡」という以外は研究者の間でも、それほど注目を集めることはありませんでした。ところが平成12年(2000)になって、それより古い遺跡の大半が発掘者のねつ造だったことが分かったのです。古い遺物を埋めてあたかも今見つけたように細工していたのです。研究者は当時「神の手」と言われていましたが、その名声が欲しくてねつ造していたようです。



出土した石器

それで約9万年前の金取遺跡が急に、「日本最古級の遺跡」として脚光を浴びるようになったので

す。それで昨年12月、日中韓の研究者ら約100人が遠野に集まって公開シンポジウムを開きました。わが文化研究センターからは、黒田篤史学芸員が登壇して、研究発表しました。黒田学芸員は平成15年(2003)、合併前の宮守村職員となって以来、この遺跡の研究を続けてきました。発表の中で、この遺跡の重要性を強調し、最後に「いつから日本列島に人類が生活していたのかを解き明かす一助となることを目指したい」と話しました。

少し専門的な話になると、我々の先祖はホモサピエンスという人類ですが、彼らが日本にやってきたのは3.5万年ほど前なのです。ところが金取遺跡は9万年程度前の遺跡です。遠野に住み着いたのは、ホモサピエンス以前の「古代型人類」だったようなのです。そこらへんはまだ未解明。とはいえ、ここが日本で住みやすい場所だと思って選んだのは間違いありません。私たちはその地に住んでいます。それだけでも幸せな気分になりませんか。



工事中の千葉家で説明する黒田学芸員

黒田学芸員は今、国の重要文化財「千葉家住宅」の整備事業を担当しています。平成36年度(2024)までかかる大仕事。こちらも、思わぬ成果が出てくることを期待しましょう。

★今月のプレゼント

このコーナーについてご感想等をお寄せいただいた方3名様へ抽選で『金取遺跡発掘報告書』をプレゼントします。①お名前②住所③電話番号④感想一を添え郵送、ファクス、メールのいずれかで下記まで送付ください。多数の応募をお待ちしております。※締切9月28日(金)



★問い合わせ：遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp